

全久院報

松本市深志 3-7-50 電話 0263-36-3211

あけましておめでとうございます

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

令和の大改修来年は皆様のお蔭をもちまして、庫裡1、つまり先代住職が住んでいました離れの部分の改修が終わりました。今年は庫裡2の改修に入ります。庫裡2は現在の寺の正面玄関、外からは3階建てに見える建物です。入口、玄関ホール、お勝手、住職や副住職が現在住んでいる3階部分にあたります。このように改修工事を中心にして全久院の一年を進めてまいります。次の文章に詳細を記しますが、正面玄関が使えなくなりますので、皆様にはご不便をおかけします。宜しくご協力お願いたします。

コロナ感染症ですが5類感染症となり一年が経過しようとしています。法事や葬儀など感染症以前の形態に戻ることはないかと思いますが、寺を使って儀式を行い、飲食をすることが増えてきました。以前のような大人数にすぐ戻ることは考えられませんが、人数が少なくなった分、駐車場の心配がなく寺を使うケースが増えています。改修前の寺を使って思い出や、心に残る法事を行っていただきたく存じます。檀信徒の皆さんや総代様の意見を頂戴しながら、皆様の知識を結集して改修事業や全久院の運営をしてまいりますので、本年もよろしくお願いたします。

令和の大改修 進捗状況

申し込み状況 令和4年末より檀信徒の皆様へ「全久院令和の大改修」の趣意書を配り始めました。趣意書などにもお書きしましたが、コロナ感染症、ウクライナ問題、世界経済、

円安など経済状態が悪い中、寄進をお願いしなくてはならないことは、わたくし共にとりましても苦渋の決断であり、檀信徒の皆様にとりましても多大なご負担と拝察いたしますが、何とぞご理解賜り、ご協力をお願い申し上げます。

令和5年12月現在で、404軒 115,279,000円の寄付の申し出を頂戴しました。そして93,612,000の入金を頂いております。松本市や県内外に約800軒の檀信徒の皆様がおります。お申し出はまだ半分です。これからも進捗状況をお知らせしながら、寄付のお願いを進めてまいります。

申し込み方法 第一次の勧誘では、ヤマト宅急便にて「寄進趣意書」「全久院の歴史」「申込用紙」「郵便払込取扱票」をお送りしました。寄付のお申し出がまだな檀信徒様は、もう一度内容をお読みいただき、寄付金額・納入回数など決めていただき、「寄付申込書」にご記入の上、ファックスか郵便にて全久院までお送りください。ファックス番号や全久院の住所は申込用紙の下の段に記載してあります。申込用紙を元帳簿として会計整理をいたしますので、お手数をおかけしますが宜しくお願いたします。文書が見当たらない方は再送いたしますので、その旨お申し出ください。

工事進捗状況 庫裡1の引き渡しが1月22日に行われ、住職は引越します。副住職は近くにアパートを借り一年ほど間借りします。4月から庫裡2の改修工事を始めます。その間の寺への連絡は従来どおり電話でお願いしますが、玄関や庫裡への出入りが変わりますので対応をお願いいたします。まずは解体工事を3月から始

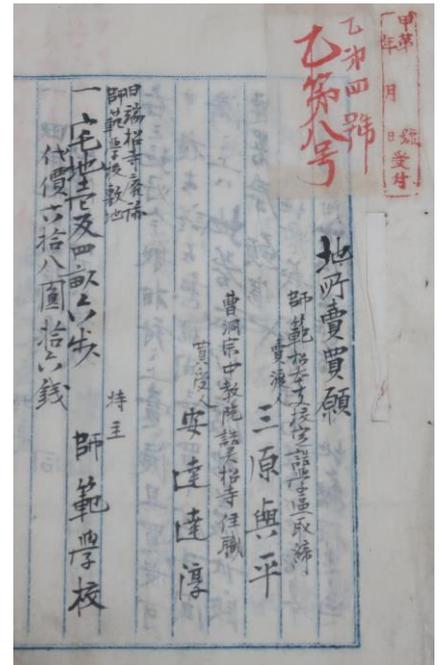


める予定です。3月までに現在のお勝手・物置・入口などを片付け、4月から改修工事にかかり、本年中に工事を完成させます。皆様にはご不便をおかけすることと思いますが、なにとぞご容赦お願いいたします。

工事中の寺の使用変更 改修工事に伴い、連絡方法や、法事での庫裡の使い方が変わります。**電話は今までどおり**です。**正面玄関が変わります**。今までの正面玄関の手前、**本堂よりの小上がりを玄関とします**。**呼び出しのチャイムを付けます**ので、それで寺の者を呼び出してください。法事や葬儀などのスペースは本堂や庫裡が今までどおり使えます。勝手に解体してしまいますので、**庫裡の中に仮の勝手を用意します**。小さな勝手ですので皆様にはご不便をおかけします。どのように使い勝手が悪くなるのか想像できませんので、その都度使い方を試行錯誤しながら対応してゆきますのでご協力ください。

後藤先生レポート 右の文書は**明治11年2月22日の申請書**です。後藤先生に詳しく内容を確認していただいている最中ですが、師範学校の取締役三原与平氏に安達達淳師が師範学校の土地に対して売買願いを出したことが分かります。この土地が現在の全久院の場所ですが、瑞松寺を廃寺にして師範学校を建てるべく準備していたということが分かります。その土地を明治11年に全久院を再興すべく購入申請を出したということになります。

今回は後藤先生により廃寺となった全久院の動向について書いていただきました。廃寺となった全久院がどのように復興してゆくか、興味深い記事となっています。



第2回 「松本藩の廃仏毀釈と全久院」

明治維新のときに松本藩では廃仏毀釈はいぶつきしゃくを激しく行いました。

廃仏とは仏教に関わる物事を撤廃すること、毀釈とは釈迦の教えを棄却することです。日本へ入った仏教は、諸仏が日本の神と結びつけられるようになり、神と仏が一体化した神仏習合という考え方が人々の間に定着していました。ところが明治政府は新しい政治を行うには神道を国の宗教にすることが必要だとして、慶応4年（1868）3月に神仏分離令を出して、今まで一体であった神と仏を明確に分離する方針を示しました。これがきっかけとなって、廃仏毀釈の運動が全国的に広まっていきました。

明治2年（1869）の版籍奉還によって、松本藩は藩主戸田光則を知藩事として、新政府の方針に従った政治を進めていきました。そのなかで同3年から仏葬を神葬へ変えること、僧侶をやめさせて農民等にすること、無住や檀家のいない寺庵を廃止することが推し進められていきました。

石塔うし とじに「大人」「刀自」といった文字が彫られているのは神葬祭で葬られた方の墓です。寺院へは僧侶の帰農を進め、松本藩内では75パーセントの寺院が帰農したといえます。

全久院は藩主戸田家の菩提寺でした。知藩事の戸田氏はこれを率先して廃寺にしたといえます。全久院の歴史はここでいったん途絶えます。寺内には仏像や仏具、戸田家の位牌、経典といった様々なものがあったと思われますが、それらがどうなったのか今後の調査の大きな課題です。現在整理をしている経典のなかに、旧全久院から流出したものを手に入れた方が、復興した現在の全久院へ納めたと思われるものがあります。埋橋の戸田家の墓地に付随していた前山寺（開山は全久院32世雲生洞門）にあった戸田家の位牌は廣澤寺に移っています。全久院の建物は明治4

年に仮設病院に、明治5年には学校（筑摩県学）として使われています。（後藤 芳孝）

お寺では、全久院の歴史をたどるための史資料を探しています。これは関係しそうだと思うものがありましたら、ご一報ください。

コロナ感染症に対応する法事や葬儀の仕方

コロナ感染症が5類感染症となり、法事の形が変わってきました。最近の法事は次のように変わっています。

法事 法事に集まる親戚や知人の人数が次第に増えています。法事は日ごろ薄れている絆を深める良い機会だという再認識はますます強まっています。コロナ感染症の期間人間どうしの繋がりが希薄になってしまったのを取り戻そうとしているのだと思います。まだまだコロナ以前の人数には戻っていませんが、人数が少なくなった分、ふれあいや会話が親密にできるようになったと皆様おっしゃいます。読経、お墓参りの後、飲食というケースが増えています。セットは業社にお願いしますので後片付けまでお願いできます。便利にお寺を使ってください。

葬儀

1. 参加者 家族・親戚・友人・仕事関係者など従来のとおりに戻りました。
2. 会食 一人ずつの弁当・盛り込み料理などお参りの方の健康や便宜を考えて用意されています。1周忌や3回忌は飲食を共にしますが、葬儀の蔡は控えておきましょう、とおっしゃる方。いや、短時間で切り上げるので、という方もいらっしゃいます。皆で最善の方法を創り出してゆきましょう。
3. 会場 人数制限し少人数になりますから、自宅やお寺をお勧めします。お寺は檀家の皆様に使っていただいた建物ですので、**会場費はいただきません**。もちろん設備の整った葬儀社のホールでとお考えの方もいらっしゃいますが、設備の良い分だけ経費もかかります。いろいろお考えいただきながら、最善の方法をお選びください。ちなみに100人の参拝者にお寺に上がってもらい、焼香していただいた例もあります。
4. 費用 会葬者・列席者も増えてきたとは言え、葬儀や法事費用はほとんど喪主・施主様が支払わなくてはなりません。葬儀では食費やお返しの品などの費用を別にとすると、**役所への届け出や火葬費用、葬儀に必要な基本的な物品の費用は20～30万円程です**。後は式場をどこにするかです。

檀信徒の皆様のご要望を聞きながら、進めてまいりますので、前もってお寺と相談しておくことをお勧めします。

全久院の集い

施食会 8月5日恒例の施食会が開催されました。コロナ前のように、まだ寺の手作り

弁当をお出しするわけにはいきませんが、「令和の大改修」の報告会、バザー、法要を行うことができました。参会の皆様は、まだまだコロナ前には戻っていませんが、後日お塔婆を取りに来られ、盆棚を飾り、祖先を迎えと、従来通りのお盆が戻っています。皆様もお盆期間中に家族が帰省し、水入らずの時間を過ごされたとお聞きしました。



坐禅会 ・ ・ 六十七則「厳経智慧（ごんぎょうちえ）」 ・ ・

前回に続いて六十七則をお話します。最近は一則を八回に分けて解説するほど、一則に時間がかかります。それほど一則の中に多くの知識が詰まっています。前回は説明したように、如来（ごたくして来る存在）の智慧の徳相は廣大無辺だとお話しました。人間の小さい頭で考えられるほどの範囲を超えているということです。この限りないということを私たちの日常生活に充てはめようと考えると、三法印が浮かびます。「諸行無常」「諸法無我」「涅槃寂靜」の三つの法の印です。どんな教えもこの教えの印にたどり着きます。

諸々の行いは常に変化します、という教えです。私たちは幸せを求めます。しかし10年前幸せと思えたことは今になると変わっています。「常に変化している」という教えを身に着けると、一つの事に捕われなくなります。「悔しい！あいつは俺より働かないのに金持ちだ」という思いを捨ててしまえば、どんなに楽でしょう。悔しい！という思いに捕われ続けるので自分がどんなに幸せか気付かなくなるのです。「常に変わるものだ」という教えは、縁起・輪廻・戒律など、仏教の深遠な哲学の元になっていますが、実は自分の今の生活の仕方に様々なヒントを与えてくれるものなのです。仏教の複雑な教えを自分の日々の生活に活かすことを考え皆様にお伝えしてゆきます。

茶道部 **お城茶会** 10月8日（日）コロナの期間お休みしていた「国宝松本城合同茶会」が開催されました。全久院社中からも20人ほどが参加しました。今回参加している松本市周辺の流派は、表千家・裏千家・江戸千家・大日本茶道学会・雲伝心道流の五流派があります。場内にそれぞれの流派の席が設けられ、お客様が各席で一服飲まれます。屋外での立礼席の雰囲気、日ごろ顔を合わせない他の社中の方々と一緒に席を運営する新鮮さなど全久院茶会とは違う雰囲気と、刺激を経験できました。席が始まる前、茶が塩素の臭いで美味しくない！と指摘があり、急遽、全久院の井戸水に切り替えるなど、ハプニングもありました。秋の一日を堪能しました。



全久院即心会茶会 全久院茶会も復活しました。表千家支部総会や資格者講習会などの講習会も再開され、多忙となった11月、恒例の文化の日に変えて、19日（日）に開催しました。温暖化の影響で茶庭の紅葉はまだまだ。しかしコロナ禍で文化活動は自粛せざるを得ませんでした。久しぶりの茶会に100人のお客様に来ていただくことができました。さすがに濃茶の回し



飲みはできず、薄茶席と立礼席、点心席の三席を設けました。日本の伝統文化という真っ先に名前が出る茶道ですが、近年は稽古人口が激減しています。今年は室山時代から江戸時代にかけて世界中の文化を茶の文化に反映させた茶道具に焦点を当ててお話ししながら、日ごろ稽古を積んだ点前と、茶の味を堪能していただきました。

大黒コーナ

ドニゼッティ作曲 オペラ 『ランメルモールのルチア』公演

「オペラを楽しむ会」主催 第12回公演 「ランメルモールのルチア」を2025年4月あるいは5月に開催することとなりました。

公演日時 : 2025年4月あるいは5月連休中の日曜日ダブルキャストで2公演
会場 : まつもと市民芸術館主ホール
合唱指導者 : 倉科京子、澤木和彦、上條力秀、青木素子
練習会場 : 松本市第2地区公民館、第3地区公民館、あがたの森、全久院など
総監督 : 澤木和彦
指揮者 : 上條力秀
オーケストラ : オペラを楽しむ会特別編成オーケストラ(約22人)

あらすじ

17世紀のスコットランド。ランメルモール領主エンリーコは妹ルチアをアルトゥーロと政略結婚させようとしているが、ルチアは宿敵レイヴンズウッド家のエドガルドと愛し合っている。反対されても、また、亡霊をも怖がらず、真の愛を求めるルチアの純粹さ、芯の強さを感じさせる。これを知ったエンリーコは恋人の裏切りを示すための偽りの手紙をルチアに見せ、結婚を承諾させる。真相を知らないエドガルドはルチアの裏切りを激しく責める。ルチアは正気を失い花婿を刺殺。血に染まったルチアが祝宴に現れ、錯乱する意識の中で、エドガルドへの愛を必死に訴え息絶える。すべてを知ったエドガルドもルチアの後を追う。ベルカント・オペラの最高傑作の一つです。

見どころ・聴きどころ

スコットランドを舞台とした歴史小説をもとに、政略結婚やかなわぬ恋が描かれ、現在でも納得のいくストーリーです。圧巻の見せ場である「狂乱の場」は、ソプラノの超絶技巧と演技力を駆使し、悲劇的な錯乱状態を表現する最大の見せ場です。美しいメロディ、大規模なフィナーレや、その中で歌われる主要キャストによる六重唱など、名作の名にふさわしい聴きどころもたくさんある。

日本で大変希少になってしまったベルカントの技術を持つ歌手を一人でも多く育てる他、イタリアオペラの雰囲気をご堪能いただき、感動いただける舞台を出演者・スタッフ全員が一つになって創り上げていきます。

松本仏教和合会

松本仏教和合会は松本の風物詩ともいわれる**托鉢**を4月1日から始め、5月上旬にお釈迦様の誕生祭「**お花祭り**」をおこなう、超宗派の40カ寺から成る団体です。やはりコロナ禍で活動を中止していました。今年7月から住職は会長に就任し、どのように再開させるかを主目的に、会を再稼働させる役目を背負います。4年間托鉢を行っていませんから、托鉢をお受けいただく家も変わっています。まずはアンケートをとってお受けいただけるかどうか調査をしなければなりません。以前は20人近い僧侶が仏間に上がり読経しましたが、コロナ禍で人が密になれません。そんな世の流れの中でどのように再生させることができるか、会員の智慧を結集して事業案を練ってゆきます。



掲示板 (皆様のご参加お待ちしております)

下記の予定は変更される場合もありますので、参加の際は日時を寺に確認の上お越しください

1月20日(土) 4時より全久院で開催します。今年も各部の発表などは中止し、4時より護持会総会となり、皆さまから頂戴している護持会費の会計報告、全久院令和の大改修の経過報告を致します。改修工事は庫裡1(計画上の名前、離れの建物を指します)が完成予定で、次の庫裡2の計画が具体化してきますので、その進捗状況を報告いたします。4時40分より本堂にてお参り、終わって皆さまにお弁当をお配りして感染症予防のためお開きと致します。なお、マスク着用、熱のある方は出席しない、などの対応をお願いいたします。参加希望の方は1月15日(月)までに電話でご連絡ください。

．．． 観音講 ．．．

毎月17日10時から12時半まで行います。10時から観音様にお勤め、10時45分からご詠歌、11時半から大黒の指導で親しみやすい曲の合唱、12時より茶話会という日程です。現在15人ほどの参加者があります。気寄りが良く60代から80代の方が元気に集まって来ます。住職の役職の都合で日程の変更がありますので電話などで日程の確認をお願いします。気楽な会ですのでぜひご参加ください。

．．． 座禅会 ．．．

2月17日(土)・3月16日(土)・4月15日(土)・5月20日(土)・6月17日(土)・7月20日(土)・9月21日(土)以上が上半期の日程です。基本的には第3土曜日夕方4時集合、4時40分まで青山俊董師の市民タイムスのコラム「従容録」を住職が解説し、5時45分頃まで座禅、6時まで茶話会という予定で行います。座禅を経験していただきながら、混迷する現代、自分を見失ってしまいそうな日々を、もう一度自分の時間を取り戻して、ものの見方や生き方をゆっくり考えてみるのが是非必要と思います。そんな時間に身をおいてみませんか。青山老師をお呼びしての講演会をするための積立金1000円をお願いします。

．．． ご詠歌の会 ．．．

2月14日(水)・3月13日(水)・4月10日(水)14時30分・5月8日(水)・6月15日(水)・7月10日(水)・9月11日(水)第2水曜日、午前10時半より12時まで、白板東昌寺住職 飯島恵道師にご指導いただきます。ご詠歌の検定を受けたり、ご詠歌の全国大会や県大会、全久院のお盆法要、新年会、和合会の花祭りなどに参加したりお楽しみもいろいろあります。上記の日に突然来ていただいても結構です。一緒にいかがですか。なお参加費用1回2000円をお願いいたします。

．．． 歌の会「花かんざし」 ．．．

1月17日(水)、1月31日(水)・2月7日(水)・2月21日(水)・3月6日(水)・3月27日(水)・4月3日(水)・4月24日(水)・5月15日(水)・5月29日(水)・6月5日(水)・6月19日(水)・7月3日(水)・7月31日(水)・8月7日(水)・8月21日(水)第1・第3水曜日に開催します。大黒の指導で、童謡・唱歌・流行歌・名曲を練習します。期日は基本的には毎月の第1、第3水曜日です。発声練習の成果で高い声が出せるようになったと好評です。時間は10時から12時。会費は1回1000円、途中10分ほどのティータイムがあります。ご希望の方は全久院まで連絡ください。上記の日程には変更する場合がありますので、お越しの際にはあらかじめ電話等で確認ください。

．．． ホームページもご覧ください ．．．

<https://zenkyuin.or.jp/>